

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和元年7月4日（木） 16時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・三重県埋蔵文化財展について（発表）

質疑事項

- ・令和2年度三重県立高等学校入学定員の公表の延期について

発表項目

本日は埋蔵文化財センター設立30周年記念展について、発表させていただきます。

三重県埋蔵文化財センターは、多気郡明和町に平成元年4月に斎宮歴史博物館とともに設立をされました。それ以来、県内各地の埋蔵文化財保護に努めるとともに、発掘調査を行い、記録保存を行ってきました。平成元年から、30年までに実施してきた発掘調査は、約760件で、総面積は146万平方メートルになります。146万平方メートルというのは、史跡の斎宮跡の指定面積よりちょっと広い、大変大きな調査面積という風になります。

この度、設立30周年を記念し、『ありがとう「平成」～平成の発掘セレクト30～』というテーマで企画展を開催することといたしました。今回は30年間の発掘調査から、遺跡の時代と地域を考慮して、ふるさと三重の歴史を解明するうえで重要な30遺跡を厳選して展示します。特に埋蔵文化財センターが保管する8件の県指定有形文化財を今回、初めて一同に展示いたします。パネルにその8点が写真として並べられております。中でも、注目される展示物は松阪市飯南町の粥見井尻（かゆみいじり）遺跡出土の土偶です。お手元のチラシの裏面の左上の写真、パネルでいうとこれです。この土偶ですけど、これですが、平成8年度の調査で竪穴住居4棟のうちの1棟から出土しました。一緒に出土した土器の年代から、今から1万3千年前のもので「日本最古」と考えられています。この土偶は昨年度東京国立博物館の「JOMON(じょうもん)」展にも出展され、さらにパリ「日本展」でも展示されたものです。

是非、この機会に、地域の出土品に触れていただきたいと思います。

資料に戻りまして、会期は8月24日（土曜日）から9月23日（月曜日・祝日）までの31日間。会場は斎宮歴史博物館 特別展示室で、観覧料は無料です。

また、会期中には、さまざまな関連行事を予定しております。8月31日（土曜日）午後1時30分から斎宮歴史博物館講堂において、国立歴史民俗博物館名誉教授で、三重県文化財保護審議会委員の広瀬和雄（ひろせかずお）先生をお招きして、「ヤマト王権からみた三重の古墳」というテーマでご講演をいただきます。その他「解説会」や「体験コーナー」を企画しており、これらはお子様でも参加いただける内容となっておりますので、お子様連れの方にも是非ご来館いただきたく、よろしく申し上げます。

最後に、「3 その他の30周年記念事業」でも記載させていただいておりますが、埋蔵文化財展の他にも、30周年を記念した取組として、「公開考古学講座」、「まいぶん祭」、「出前まいぶん祭」を実施いたします。7月から8月にかけて開催されますので、これらについても是非ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

私からは、以上です。

発表項目に関する質疑

○三重県埋蔵文化財展について（発表）

（質）31日の講師の広瀬先生の現在の役職や肩書きはどんな方でしょうか。

（答 埋蔵文化財センター）現在、国立歴史民俗博物館の名誉教授をしておられます。併せて、三重県文化財保護審議会委員で三重県に関わっていただいております。

（質）ご専門は何になりますか。

（答 埋蔵文化財センター）日本考古学で、特に古墳の分野が専門とお伺いしております。

（答）著書も言っておいたらどうですか。

（答 埋蔵文化財センター）よく言われるのが、岩波新書の「前方後円墳の世界」であるとか、「講座日本の考古学」の古墳時代というところで、お書きになっておられます。

（質）センター自体30年ということなんですが、元々どういう目的で始まったセンターなのでしょうか。

（答 埋蔵文化財センター）三重県の埋蔵文化財保護の行政の中心を担うという、そういう目的で設立されております。県教育委員会の、今は社会教育・文化財保護課という課となっていますが、そこと力を合わせて文化財保護に努めているところです。

（質）このチラシの平成と書いた土器は、裏面の中のどれですか。

（答）2番ですね。「耕地開発を進めた役所跡」の朝見遺跡のものです。

（質）そんな発表ありましたっけ。

（答）5月（※1）の定例会見のときに、公開考古学講座の第1回目のテーマということで、これは発表させていただいています。そのときに、現物をここにお持ちして並べさせていただきました。

（※1）平成31年4月15日の教育長定例会見で発表

その他の項目に関する質疑

○令和2年度三重県立高等学校入学定員の公表の延期について

（質）高校入試の関係の発表を本日予定されていたかと思いますが、本日中止となった経緯を改めて説明いただければよろしいでしょうか。

（答）ちょっと長いかもしれませんが、子どもの数が非常に減ってきてまして、ここ3年間で約1,700人が減ります。1,700人減るということは、クラスの数を減らさなければならないということで、今年度は何クラス、各学校は何クラス募集するかということをお知らせさせていただく予定だったのですが、入学定員を決定するにあたっては、各地域における中学校卒業生の増減、そこの中学生の進路状況、志願の倍率、欠員状況・充足の状況、学校や学科の配置のバランス、それから公私立検討部会という私学と公立で今年はどうな人数を受け持つといたしますか、入学をどうしようかという話があるんです

けど、これから数年間に亘ってどういう風に進めていくかという提言もいただいていますので、その方向性とか、それから望ましい学級規模が3～8学級ということがありますので、そういった色んなことを考慮しながらクラス数を決めていきます。昨日発表させていただいた前日までに、そこを慎重に検討していった結果、当初は本日という風に予定していたんですけど、そこまでに、私どもで結論を出すことができなかつたので、間に合わなかつたというのが現状です。課長から補足することはありますか。

(答 教育政策課) ないです。

(質) 色んな事を検討して間に合いませんでしたとなると、具体的には何が、どこで議論したけど、どこで議論が躓いてとか、そのあたりがよく分からないのですが。

(答) 全体で1, 700人を3年間で減らさないといけないと。そうすると、これも答えになっていないかもしれませんが、どこの学校も、どこの地域も、やっぱり減らしてほしくないということがありますので、そうすると北から南まで公立高校があるので、どこにどういう風に減らそうかという最後の調整まで、きちんと決めることができなかつたということです。

(質) 最後の調整って、どこですか。校長会とかとやるのか、何とやって決めるのですか。

(答) 最終的にはもちろん事務担当が原案を、当然私も一緒に入りながら、どこにどうしたらいいかと考えていきますので、最後ということではなくて、全体的にバランスを考えて非常に難しかったというのが答え、答えといえますか、考えです。どこがといえますか、最後がということではないですね。本当にどこも減らしてほしくない、どこの学校も言われますので。そうであったとしても、減らせないということではできないですよ。

(質) どういう枠組みでやるんですか。教育委員会の職員と教育長達で何か検討会を作ってそこで決めるものなのか、外部から人を招いて何かするのか。

(答) 教育委員会の内部です。最終的には、教育委員会の定例会で議決をいただかなければいけない事項になっています。ですから、延期となりましたが、今日教育委員会の定例会がありましたので、そのときかけなければならないという思いで、ずっと予定してきたんですけど、そこまでに整わなかつた。

(質) 提案するところまでいかなかったということですね。

(答) はい。そうです。昨年度はもう少し後だったのですが、定例会で議決するというのが私たちの目標の日程ですので、整わなかつたといえますか、その日までに、調整しきれなかつたというのが回答です。

(質) 内部で何が問題になったんですか。要は担当者間で何と何が対立してとか、何かしら障害があった結果、今日の提案に至らなかつたと思うんですけど。

(答) 先ほども申し上げましたけど、とにかく減らさなければいけないと。少子化ということで子どもが減っているのですが、やっぱり地域も学校もですね、学校は活性化の拠点であるのにクラスを減らすということについては、やっぱり誰もが反対すると。誰もがですよ、各地域とも。そういうことで、それでもちゃんとクラス数は減らさなければいけない中、じゃあ「ここと、ここと、ここと」というところが、最後まできちんとできなかつたということです。事務が遅れたとか、そういうことではなくてですね。

(質) 具体的に何クラス今回減らす予定だったのですか。

(答) 320人ですので、40人学級ですから8クラスです。

(質) 8クラスですね。この8クラスを具体的にどの学校にあてるかというところで。

(答) そうです。

(質) 全く合意ができなかったということですか。

(答) そうです。教育長がそんなの駄目だと言った訳でもないし、知事がそんなの駄目だと言った訳でもないし、全員の合意がやっぱりできないと踏み切れませんので、そこが最終的などこまでいけなかったというところですよ。

(質) 7月4日に教育委員会の定例会があることが分かっている、どこも減らしてほしくないことは分かりきっているうえで、それに向かって調整して間に合わないのはどういう事務能力をしているのか疑問なんですけど。

(答) そのように言われて然りです。

(質) 昨日になって間に合わないと連絡がありましたが、一昨日の段階では間に合わす自信があったのか。

(答) 間に合わす予定でした。

(質) 間に合わす自信があったのか。

(答) そのとおりです。一部の報道に書いてあったか分かりませんが、中学生にとって、どこの高校へ行くか検討する夏休みの前の三者面談(教員、保護者、生徒)があり、その時まで、どこの高校が何人募集するという数字は出さなければいけないので。それと、教育委員会定例会の日程を合わせて、7月4日にだそうということで一生懸命頑張って慎重に検討を重ねたのですが、言われたようにマネジメント能力と言われたらそうかもわかりませんが。

(質) 最初から、7月4日に定例会を開催することが分かっているのに、また、どこも減らしてほしくないということは分かっていることですよね。なぜ間に合わないのかが分からない。それまでに調整するのが事務でしょう。

(答) そうですね。それができなかったということは、私のマネジメント能力を疑うと言われるとおりにかもしれません。

(質) 一昨日まではできる予定であったのか。

(答) できると思っていました。ただ、どこも「はい、分かりました」というところはありませんので。そんなことは分かっているうえで、調整するのが私たち事務ですので。中でも、慎重に調整した結果遅れてしまいました。

(質) 議決が必要であれば、次の教育委員会ということになるんですか。

(答) そうです。

(質) その日はいつですか。

(答) 今のところ、7月11日に臨時の教育委員会を開催して、そこで議決いただけるよう準備を進めています。

(質) 11日は午前か午後か。

(答) 早く開催したいので、午前にしたいと考えています。

(質) 一昨日までできると思っていたことが、11日まで1週間もあれば楽勝では。

(答) がんばります。

(質) 発表が遅れたことにより、基本情報が遅れることで今後進路を考える子どもたちの進路に影響する可能性があると思うが、そこに対する教育長の想いはどうか。

(答) 繰り返しになりますが、教育委員会の定例会の議決を経るという過程を踏んで、発表します。その日が、過去には7月13日や7月中旬であったりということで、三者面談のときに、教員と保護者と生徒が集まって、そこで話をするまでに間に合わず。毎年、定例会の日程は異なりますが、そこが絶対のぎりぎりです。

(質) 今回は進路には影響しないのか。

(答) 影響しません。

(質) 一昨日の段階で、合意ができると判断した根拠は何か。

(答) どこでも反対されるというのは認識しておりました。反対で、「納得した。分かった。了解した。」との答えは聞けないですけど、それでもしなければいけないとの思いが強かったということです。

(質) それでもしなければとは。

(答) 教育委員会定例会が7月4日であり、報道機関にも紙面の枠取りをお願いしているということもありましたので、責務として絶対に2日までには合意しないとイケないと思っておりました。

(質) 逆にいうと、合意形成の際に、皆が納得する案はなく、とりあえず想いだけでということか。

(答) 合意形成の案もいろいろ考えております。8クラス減ということなので、いろんなパターンを考えているのは事実です。

(答 教育政策課) 3年間で1,700人、40学級ちかくが減るという今までになかったような3年間で迎えているということがございまして、その中で320人ということは8学級になります。子どもの数がきちんと1学級ユニットで綺麗に減れば、減ったところを減らすとすれば、子どもの行き場が困らないということでやり易いのですが、そんなふうにはいかない。例えば、ここは18人減って、ここは23人減ってみたい。また、各地域、高校生なので地域を跨いで通学するため、これらを勘案し計算して減をだすが、腹案が複数でている。そういった中で、高校生が通学できる範囲のなかに、できるだけいろんな選択肢、工業、農業、商業、進学校などが選べるようにしておきたいとの思いが強くなります。3年間で40クラスが減るとなったときに、どこか減らしやすい、減らしても当たり障りのない規模の学校なのでということで、ポンポンと減らしたとすると、例えば普通科の学校ばかりが同じ年に減ってしまうということが起こりうる。年度によって選択肢が狭められるということがないよう、全体のクラス数としては減っていくのですが、選択肢の比率はできるだけ子どもたちが困らないようにしていきたいため、迷いに迷って検討をさせていただきたいとのことになりました。遅れてしまい、非常にご迷惑をおかけして申し訳ありません。

(質) 県教委の案はできてるわけでしょ。

(答 教育政策課) 最終的な案までは固まらなかったということで、ご理解いただきたいと思えます。

(質) イメージとしては、例えばA, B, Cという案があって、A, B, Cのどれを選ぶかでもめているのか、そもそもそういう枠組み自体がないのかどっちなんですか。

(答 教育政策課) 全体の枠組みは当然ありますが、各地域で先ほど申し上げましたような要因がございませけれども、その要因ごとにあてはめていったときに、例えばこのエ

リアで今年1学級減らしても、子どもたちの進路は困らないであろうと、そういうような想定はできますので。ただ、それがエリアをまたいで子どもたちが動いたりとかしますので、40人1学級できちつとはまるということはなかなかないんです。そのところで、いろいろこうしたい、ああしたいという思いが出てきまして、そこは決めきれていないということです。

(質) 決定には各校長の同意がいるんですか。

(答 教育政策課) そういうことはございません。

(質) つまり校長がごねたとかそういうことはない。

(答 教育政策課) はい。

(質) じゃあ1週間延ばすことによって、何が変わるんですか。ここまでずっとやってきて、決め切れなかったから1週間延ばしてって、この1週間延ばすことによって、何が変わるんですか。

(答 教育政策課) いろんな可能性を最後もう一度検討したいということでございます。

(質) もう一度って、今までも十分検討してきたんじゃないんですか。

(答 教育政策課) それは検討してきたんですけども、そこまでしきれていなかったと、最後に合意形成にまでは至らなかったと、このタイミングに間に合わなかったということです。

(質) 今聞いていて思うのは、何か1週間で今までになかった新しい案がでて、それが解決策として出せるっていう可能性がどれくらいあるのかっていうところと、もしそれがあんまり低いのであれば、逆に言うところのタイミングで決断できなかったっていうのも、それはそれでひとつの教育委員会としての責任だと思うのですが、そのあたりは教育長どのようにお考えでしょうか。

(答) 1週間延ばすっていう意味合いが、やはり丁寧に、減らすのですべての者が合意というまでには至らないと思うのですが、それでもその程度というか、それを少しでも丁寧に、自分たちの中で納得できるように高めていく期間として、1週間という期間をとりました。それが1週間じゃなくても、教育委員が集まる機会というのが、11日という日でしたので、そのときに教育委員会の定例会の議決を経るという手段をとりたかったので、11日ということですので、それが3日後だったら3日後、もっとだったら三者懇談に間に合わないことになってますが、その日にしたということになります。だから、丁寧に、慎重にと、繰り返しになりますが、その言葉しかありません。

(質) トップとして、このタイミングだからもう決める、というのはしたくなかったということですか。

(答) 丁寧さをもう少し重視したかったというのが事実です。

(質) ということは、丁寧にできていないという判断なんですか、これまでの議論は。一昨日までの議論は、丁寧に慎重にできてなかったということですか。

(答) 丁寧に、慎重にやってきましたが、でもそこでまだ足りない部分があったということで、さらにということです。

(質) じゃあ、あと何が足りないんですか。

(答) もっと、同意までは至らないけれども、減らす理由とかそういうことをみんなに理解いただくということが必要かなという風に思っています。

(質) みんなというのは。

(答) やはり、減らす地域であったりとか、内部も含めてですけど、全員がまでは無理なので、できるだけ多くの者に理解をしてもらおうと、そういうところです。

(質) ということは、この1週間の間に、その地域の人たちに説明するってということですか。今、同意は必要ないというふうに言っていましたけど。

(答) 地域への説明ということではなくて、教育委員会の内部もそうですけども、なるべく多くの者が、じゃあここでということで、子どもたちの進路の機会が一番ベストなようにという、さらに質を高めるという意味の丁寧さという風にご理解いただきたいと思います。丁寧にやってきたけれども、じゃあ1週間たったらもっと丁寧にできるかと言ったら、そこはそうしたいという風に考えているということです。

(質) あくまで教育委員会事務局内部のコンセンサスがとれていないということですか。

(答) 中のコンセンサスということではないですけども、これまでも地域の活性化で小規模の学校ですとか、いろんな学校で地域の協議会とかを開いて、そこの連絡もいろいろしていますので、そこの学校の校長がごねているということではないですけど、その地域の学校でここで何クラス減らすというのは、やっぱり内容的にきちっと説明しないといけないという風には思っているところです。

(質) その説明を今している訳ですか。

(答) はい、そうですね。相手方の日程とかがあったりして、そこまで。

(質) その説明がしきれていないし、地域の納得が得られていないってことなんですね。

(答) 納得は多分どこまで行っても得られないです。納得はどの地域も得られないです。それは事実です。

(質) まだ丁寧な説明ができていない段階で、教育委員会で決めて発表すること自体が不誠実だと。

(答) そういうことですね。何回も言いますが、納得は絶対されません。8クラスのあるどの地域においても。それを少しでも丁寧に、納得まではいかないが、もう少し質の高い理解をいただきたいと。一方的にバーンではなくて、相手の理解を得るための説明の日程とかもとれなかったりもしていますので、そこの最後の詰めをきちんとやりたいということで、させていただきました。

(質) この一週間で地域には説明しないですよ。

(答) 地域への説明というのはないです。

(質) 学校にも説明はしないですか。

(答) 説明するということではなく、学校も今の段階では自分の学校が何クラス減るといふ状況は全く承知していません。ただ、調整の段階で、自分の学校でもし減らされたらどういふ状況になるというのは、事務局側はつかまないとはいけないので、そういった調整については事務局が案を持っている、多数の学校には事情を聞いているという調整はしています。説明ということではなく、例えば、A高校の校長に「あなたの学校は1クラス減ります。」という説明は一切していませんが、その地域の中でこれだけ子どもの数が減る、それが90人だとしたら、この地域で2クラス分減らさないといけないが、そういうことが可能かどうかについて、今年度の分だけではなく来年度の分も含めて、学校へどうでしょ

うかと聞いています。何クラスとも言っていませんし、説明ではなく、事情は聞いているという調整はしています。

(質) 教育委員会の想定と向こうのヒアリングはしているということですね。

(答) そういう調整をしているということです。

(質) それはすでに終わっているという段階ですかね。

(答) そうです。

(質) ということは一週間延ばすということは、教育委員会の内部でコンセンサスを得ていなかったということで、内部の事情のような気がします。

(答) 小規模校については3クラスとか2クラスとか、何十人しか来ない学校とかいろいろあります。そこを減らすということではなく、もし地域全体の中でこれだけ減ったとしたらどうでしょうかというヒアリングはしていますが、何回も言いますが説明ではありません。そのヒアリング調整をもう少しこの一週間、丁寧にしないといけないかもしれないということで延ばしたということです。

(質) 学校への追加のヒアリングに向かうことはありうるのでしょうか。

(答) それはないですね。あとは事務上の整理をどうするかを考えるだけです。

(質) ではやっぱり内部で合意ができなかったというのが一番大きいんじゃないでしょうか。

(答) 教育委員会事務局の内部ということではないです。説明はできないので、調整なんですね。この地域で、例えば100人くらい減らさないといけないので、2クラス分あなたの地域で減らさなければならぬんですよというのは、地域でそれぞれの協議会で調整しており、そういうところにも丁寧な調整やヒアリングが必要だということを考えて延ばすものです。内部でということではないです。

(質) そういう追加のヒアリングや丁寧な対応が必要だと思いますと言いながら、この一週間で学校にそういうアクションを取らないというのは、言ってることとやることが違うような気がします。

(答) 事務上の整理ということですかね、慎重にということの。さらにヒアリングをしてということになると收拾がつかなくなりますので、それをどう調整するかという事務上の、マネジメント上のということですね。事務方としてはきちんと案を持っています。

(質) それは教育長ご自身の責任が大きいととらえてらっしゃるということですか。

(答) そうですね、私の責任が大きいと思います。

(質) 決断というか決定が出せなかったという教育長としてのマネジメントの問題が大きいということですか。

(答) それで結構です。

(以上) 16時34分 終了